

2025年8月の「資本論まなぶ会」報告

★8月16日（土曜日）、午後2時から4時まで、大東市サーティーホールの公民館3階（料理室）に、7人の参加者がありました。

★午後2時から3時までは、『資本論』・第一章「商品」の、第三節・「価値形態または交換価値」の「A 簡単な、個別的な、または偶然的な価値形態」の「3 等価値形態」の第9パラグラフから始め、第12パラグラフまでしました。

★①最初に出た疑問は、第9パラグラフの次の文についてでした。「リンネルの価値表現においては、裁縫労働の有用性は、それが衣裳を作り、したがってまた風采を挙げるということにあるのではなくて、それが価値であること、したがって、リンネル価値に対象化された労働と、全く区別されない労働の凝固態であることが、見て取れるような一身体を作ることにある。」と言われていますが、「裁縫労働の有用性」は、使用価値ではなく、「価値である」という点が分からないというものでした。

これに対しては、裁縫労働を取り上げるなら、確かにその有用性は、上着や衣裳を作り、それによって人の風采を挙げる点にある。しかし、今ここで問題になっているのは、リンネルの価値表現であることを考えるなら、リンネル＝上着、織布労働＝裁縫労働という関係の中では、上着が価値を表しているように、裁縫労働は抽象的な人間労働を表している。その意味で「裁縫労働」は、抽象的な人間労働以外の何ものをも反映していない、裁縫労働の有用性は価値であるという返答があり、了解されました。

②次に出された疑問は、第10パラグラフの次の文についてでした。「裁縫労働の形態でも織布労働の形態でも、人間労働が支出される。……ところが、商品の価値表現においては、事態がねじ曲げられる。例えば、織布労働が、織布労働としてのその具体的な形態においてではなく、人間労働としての、その一般的形態において、リンネルの価値を形成するということを表現するために、織布労働に対して、裁縫労働が、すなわちリンネルの等価物（上着）を生産する具体的な労働である裁縫労働が、抽象的な人間労働の手でつかめる具体的な形態として対置される。」と言われていました。

この中の「事態がねじ曲げられる」とはどういう意味かという疑問が出されました。これに対しては、リンネル＝上着、織布労働＝裁縫労働という関係の中においては、上着を作る裁縫労働という具体的な労働が、その反対物の抽象的な人間労働の現象形態になることである、という返答があり了解されました。

また「商品の価値表現」と言われているが、価値とは使用価値か否かという疑問がありました。これに対しては、使用価値ではなく価値であるという返答があり、了解されました。

★3時から4時までは、第三編「絶対的剰余価値の生産」の、第8章「労働日」の第6節「標準労働日獲得のための闘争。法律による労働時間の強制的制限。1833～1864年のイギリスの工場立法」の注150の次のパラグラフから、注153の前のパラグラフまでしました。

そこでは「資本は、8歳の働く児童を、午後2時から晩の8時半まで、休みなしに苦役させるだけでなく、ひもじくもさせるという楽しみを要求し、かつ、無理やり獲得した！」などと言われています。19世紀半ばの、イギリスへの移民が話題に上り、それとも関連して1960年代の日本にもあった、中卒者の集団就職などが話題になりました。

★最近、気になる話題と言えば、中国電力が、山口県の上関町に、使用済み核燃料の、中間貯蔵施設の建設立地を、可能としたことです。今後は上関町の判断が問われています。

1982年に、中国電力による上関町への、原発建設構想が表面化しました。しかし1995年には、阪神・淡路大震災が起こり、2011年には、東北大震災が発生しました。

地震による災害は避けられません。その中での、原発建設や、中間貯蔵施設の建設には、不安がよぎります。私利私欲に囚われた資本の、原子力利用ではなく、先ずは、その私利私欲の克服が必要ではないでしょうか。『資本論』を学び、私利私欲に囚われた社会関係の克服をめざしましょう。

★9月の「資本論まなぶ会」は、20日（第3土曜日）・2時から4時まで、大東市サーティーホール公民館（JR住道駅から南へ徒歩5分）・2階の洋室で行います。

午後2時から3時までは、「3 等価形態」の第13パラグラフから始めます。

午後3時から、第6節「標準労働日獲得のための闘争」の、注156の次パラグラフから始めます。

多くの方の参加を願います。